

第4章 夏から秋へ



中秋の名月（埼玉県川島町）

【 I 】 秋風に揺れる花

秋の七草を昔の人はすべて覚えていた。しかし今の若い人はそんなもの、誰も知らない。正直いって筆者も若い頃は、せいぜい4つぐらいしか知らなかった。そのうえ花としてしっかりとイメージできるものはキキョウ、ナデシコ、ハギ、ススキぐらいなもので、後は変な雑草ぐらいにしか思っていなかった。ところが母がフジバカマとオミナエシを庭に植えたときから、なるほどこんな花だったんだと思うようになった。植物が秋を告げるという意味が、何となく明確になってきたのである。

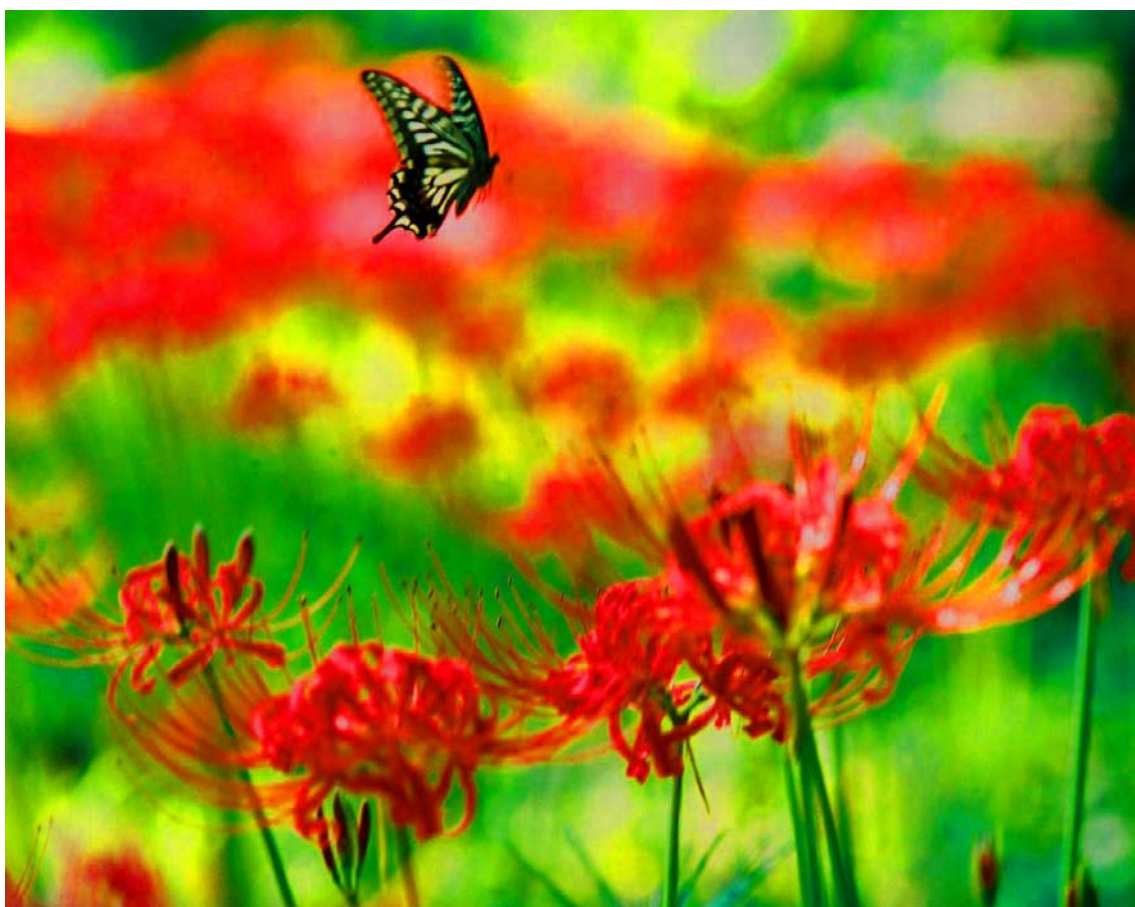
クズの花を知ったのはそれから大分たってからのことである。いや実は花も葉もよく知っていた。しかしこれが秋の七草として一つに結びつかなかったのである。私にとってのクズは、山野で見れていたにもかかわらず、ウラナミシジミやトラフシジミ、ウラギンシジミといった蝶の食草としてのクズであって、秋の七草としてのクズではなかったのだ。そして秋の七草としてのクズを知ったとき、美しい花だと思った。

同様にオバナもそんなものだった。子供の頃からススキと教えられていたから、オバナというものと即座に繋がらなかったのである。枯れススキは中年の叔父さんで、枯れオバナはどちらかというと幽霊の親戚としてのイメージが強かった。

明治生まれの母はチャキチャキの江戸っ子であったにもかかわらず、こうした草花をよく知っていた。昔は東京といえどもそれぞれ庭があり、あちこちの家の庭先にこうした花が植えられていたのだろう。また学校でもきちんと教えてくれたのだと思う。時とともにこうした日本人の風土が失われて行くのは誠に残念ではある。しかしこれもいわゆる御時世なのだろう。

趣味で家庭菜園をやっている友人がいる。彼が言うには野菜の名前を 20 種以上あげることができるのは、男の場合は殆どいないのだそうだ。鳥の名前だって、花の名前だって、魚の名前だって、みんな 20 知っていれば立派なもの、というのが彼の持論である。なるほどそうなのかも知れない。

※長日植物と短日植物＝カレンダーを持たない植物は、季節感をさまざまな自然界の変化によって読み取っている。その最も大きなものは日照時間の長さである。夜の長さが短くなって夏へ向かうときに花を咲かせるものを『長日植物』という。逆に夜の長さが長くなってくると花を咲かせるものを『短日植物』といい、秋に開花するコスモスやキクはその代表である。また専門的にはこうした植物の習性を『光周性』と呼んでおり、植物を経済栽培するときには広く利用されている。



彼岸花にきたアゲハチョウ(小平市薬用植物園)と、一面に咲いたコスモス(埼玉県羽生市)。

この項に記されている植物のリスト

第4章 夏から秋へ

【I】秋風に揺れる花

04-01-00-1

- | | |
|----------------------------|------------|
| 1) コスモス=秋桜 | 04-01-01-1 |
| 2) キキョウ=桔梗 | 04-01-02-1 |
| 3) ナデシコ=撫子 | 04-01-03-1 |
| 4) クズ=葛 | 04-01-04-1 |
| 5) オミナエシとオトコエシ=女郎花と男女郎 | 04-01-05-1 |
| 6) フジバカマ=藤袴 | 04-01-06-1 |
| 7) シオン=紫苑 | 04-01-07-1 |
| 8) ススキ=薄/芒/尾花 | 04-01-08-1 |
| 9) オモイグサとギンリュウソウ=思い草と銀龍草 | 04-01-09-1 |
| 10) ヤナギラン=柳蘭 | 04-01-10-1 |
| 11) ミソハギ=禊萩 | 04-01-11-1 |
| 12) ナツズイセン=夏水仙 | 04-01-12-1 |
| 13) ヒガンバナ=彼岸花/曼珠沙華 | 04-01-13-1 |
| 14) タマスダレとキバナタマスダレ=玉簾と黄花玉簾 | 04-01-14-1 |
| 15) ヒオウギ=檜扇 | 04-01-15-1 |
| 16) レンゲショウマ(蓮華升麻)とサラシナショウマ | 04-01-16-1 |
| 17) キレンゲショウマ(黄蓮華升麻) | 04-01-17-1 |
| 18) ツルボ=蔓穂 | 04-01-18-1 |

目次に戻る
